

独自脱ステロイド後に全身症状とヘルペス関連症状を経験した成人アトピーの経過 (30 代成人)

症例 ID：001-30-FY | 記録日：2015 年 12 月 22 日

1. 診断・治療前経過

17 歳頃に頸部の激しい掻痒感から始まり、傷口からリンパ液の滲出を伴う症状が数日で全身へ広がりました。24 歳までの 7 年間、ステロイドやプロトピックなどの免疫抑制外用薬を中心とした治療を続けました。

大学卒業を契機に独自にステロイド離脱を始めましたが、頭部が大きく腫れ、目が開かず、口もわずかしか開けられないほどの強い反応を経験しました。連日の発熱、全身からのリンパ液、強い臭いもありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド外用薬とプロトピックなどの免疫抑制外用薬を中心に使用しました。
製品名	具体名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	17 歳頃から 24 歳頃まで約 7 年間。
中止時期	大学卒業を契機に独自に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
独自脱ステロイド開始後	来院前	頭部の腫れ、目や口が開きにくい状態、顔面の滲出物、40 度を超える発熱、全身のリンパ液を伴う強い時期がありました。
その後約 3 年間	来院前	軽いリバウンドと重いリバウンドを繰り返し、皮膚を掻き壊してリンパ液が滲出し、膿漏を経て治る周期がありました。
2014 年 12 月	松本医院初診	皮膚が崩れてリンパ液が出る症状、腹部症状、発汗時の痛み、頭痛などを相談しました。
治療開始後	経過中	前腕部と頸部を中心に、創傷・リンパ液・膿漏を繰り返す部位がありました。
2015 年 9 月頃以降	経過中	抗ヘルペス薬の内服量が増え、目の周囲からリンパ液が出る状態、耳内・歯茎の痛み、頭痛、発熱がみられました。
2015 年 12 月時点	約 1 年後	耳の下から頸部、下顎にかけて強い症状が続いていました。

4. ピーク時期

症状が最も強くみられた時期は、独自脱ステロイド後に頭部の腫れ、目や口の開きにくさ、顔面の滲出物、40 度を超える発熱、全身のリンパ液が重なった時期です。

5. 検査値

項目	内容
IgE	2014 年 12 月 26 日：16675、2015 年 5 月 20 日：11875、2015 年 12 月 4 日：16800。
単純ヘルペス	2014 年 12 月 26 日：562.4、2015 年 5 月 20 日：196.8、2015 年 12 月 4 日：250。

6. 困りごと

- ・独自脱ステロイドでは全身状態が非常に強く、安易に始めたことを後悔するほどの負担がありました。
- ・発汗時の痛みがあり、夏場は空調が欠かせず外出が難しい状態でした。
- ・治療中もリンパ液や膿漏を繰り返す部位があり、日常生活への負担が続きました。

7. 経過のまとめ

独自脱ステロイド後に非常に強い全身症状を経験し、その後もリンパ液や膿漏を伴う波が続きました。2015 年 12 月時点では、耳下から頸部・下顎にかけて症状が強く出ている状態でした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。